作品賞

新発田市新庁舎

建物外観（撮影：新建築社写真部）

建築概要

建 設 地：新潟県新発田市中央町 3-3-3
建 築 主：新発田市
設　　計：aat+ ヨコミゾマコト建築設計事務所、Arup
施　　工：大成・新発田・伊藤特定企業共同体
建築面積：2,841.31 ㎡　延床面積　12,995.69 ㎡
階　　数：地上 7 階、地下 1 階　高さ：33.82m
構造種別：7 ～ 4　階鉄骨造
　　3 ～ B1　階壁式鉄筋コンクリート造
　　（一部、鉄骨鉄筋コンクリート）

選評

新発田市新庁舎は街の中心部を貫くアーケード商店街に接続するように計画され、市民ラウンジや札の辻広場と共に賑わいを創出する新たな拠点施設として計画された。竣工後は期待以上に市民から利用され、中高校生を含む幅広い世代が集まるまさに広場のような庁舎となっている。建物ボリュームは街並みに馴染むように丁寧に分節され、中間階免震を採用して 3 階以下を強靭な RC 壁式ラーメン構造、上階は圧迫感を低減する透明性の高い鉄骨造による混構造となっている。特筆すべきは免震ピットを不要とした壁頭免震であり、高さを抑えるだけでなく経済性と工期短縮にも貢献している。札の辻広場は幅 13 ×奥行 50 ×高さ 12 mの無柱空間で、その上部は吊り橋のようなサスペンション構造と TMD によって構成される。可動建具とシートシャッターを開放すると大らかな半屋外空間が商店街と繋がり、祭りやイベントの会場にも活用される。また、排熱利用した床暖房によりほんのりと温かく、子ども達の貴重な冬の遊び場としても利用される傍らで、八百屋さんが瑞々しい野菜を並べて販売していた。地域の身の丈に合った大らかな都市広場が独創的で大胆な構造デザインを基にして実現しており、新しい公共空間として高く評価された。

（下吹越　武人）

建築主：新発田市長　二階堂馨
設計者：aat+ ヨコミゾマコト建築設計事務所　ヨコミゾマコト
　　Arup　竹内篤史、徳渕正毅
施工者：大成建設株式会社　河田善裕

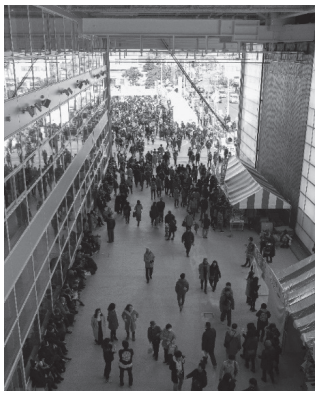
免震・制振化した経緯及び企画設計等

本建物は度重なる大地震や老朽化を受けて建替えとなった新庁舎である。単なる市役所機能だけでなく、市民の賑わいを創出する大空間広場や複数のラウンジを 1 ～ 4 階に抱え、5 ～ 7 階に防災拠点も含めた執務機能や建物の基幹となる機械室と、特に耐震性能が要求される用途が上階に配置された特徴を持つ。設計では、それらの建物機能や低層建物が連続する周囲のまち並みに馴染むデザインを実現するため、中間階免震や上下制振（TMD）を採用した。

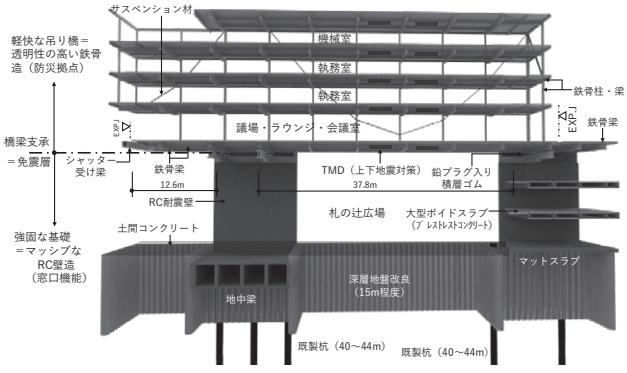
技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

4 階床下に免震層を設けて、その上下の構造を分節化させることにより、機能や景観など建築計画と合致した架構計画を実現した。免震層の下部（1 ～ 3 階）は地震時の変形や加速度増幅を抑制する剛強な RC 壁式構造、上部（4 ～ 7 階）は軽快な鉄骨構造を採用した。加えて、ピットレスな壁頭免震の採用により、躯体量や建物高さを抑えることを可能とした。

免震上部は最大 37.8m という大スパン（広場上部）であるが、外周面のサスペンション材や免震･制振（TMD）による水平・上下の地震動制御により、透明性が高く、圧迫感のない外観デザインを実現した。



札の辻広場内観（撮影：吉原写真館）



構造断面パース